

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ここっと。		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 21日		～ 2026年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2026年 1月 21日		～ 2026年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門療育に充てる時間が多く、子どものニーズに合わせた専門的な視点からの支援を行なうことが可能。	専門療育者を充実し、児童指導員とも常に連携、共有が取れるような体制を整えている。	専門療育者の意見をよりリアルタイムで取り入れるとともに、専門的な観点をより多くの職員が持つことができるような取組を実施する。
2	所内の広さを活用した、個別の居場所づくりとしての環境が整っている。	プライベートな空間や、場所によって違った過ごし方ができるような物の配置を心掛けている。	安全性に考慮しつつ、より利用者にとって安心できる環境づくりを常に模索する。
3	イベント内容の充実と利用者自身の満足度の高さ。	イベントへの準備期間や、種類など考慮する時間を設け、利用者、保護者のリアクションフィードバックを受けて、計画している。	イベントの種類や、療育的な目線でもメリットが大きいものを考慮し、実施できるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	広さから生じる環境設定や、安全性において不安要素となる点の一部見られること。	角がある部屋の構造によって死角が生まれることや、部屋の広さからの温度調節のしづらさが影響している。	利用者それぞれの状態には注意深く見られることを職員間で共有し、死角が発生しないような職員配置を徹底する。
2	地域や、児童クラブなどの外部とのつながりが少ない。	プライバシーの観点から、他の集まりなどに直接かかわることがないため。	必要としている保護者には情報を提供するとともに、そこの活動の詳細などを保護者に定期的にヒアリングできるようにする。
3	ペアトレ等の臨時的の措置の実施経験が少ない。	プライバシーの観点から、直接それらの実施にかかわることがないため。	必要としている保護者には、相談支援事業所などを通して実施できる環境を整える。